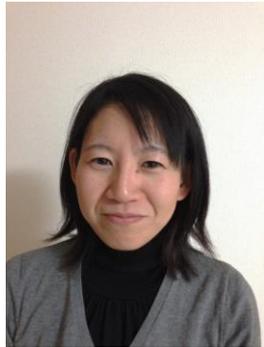


ふりがな 氏名	くまざわ ほづみ	都道府県	静岡県	
	熊澤 ほづみ			
所属/肩書	加藤学園暁秀中学校／教諭			
私の ESD活動	多文化共存と国際理解によって視野を広げ、 ライフスタイルを変えよう！			

#### 活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

本校で実施している International Baccalaureate の教育理念のもと、国際理解教育を実践して、将来国際人として活躍する人材を育成することを念頭に教育している。生涯にわたる社会貢献の意識が根ざすように、机上の学習、教室内の活動にとどまらず、生徒たちの継続的な学習と活動を通して指導している。

国際理解教育の一環として、「アフリカを知る」「幸せとは？」「日本を紹介する」などの教材を作り、グループ活動や討論会を開いた。また、毎年「世界一大きな授業」に参加したり、市販の教材を使って「支援する前に考えよう」や「世界の食卓から」を使ってゴミ問題を考えたりして、自分たちのライフスタイルを見直すことから、自分たちの役割を見つけるように考えるようにしている。特に、「支援」については、災害援助や教育を受けられない子供たちに対してどのような支援がふさわしいのか、支援先が何を求めているのか相手の立場に立って考えることを重視した。また、支援が一方向的にならないためにはどうすればいいのか、「支援」＝「募金」になりがちだが、お金に頼る支援以外にどのようなことができるのか、中学生の立場でもできることに気付かせるように指導した。生徒が主体となり考えさせる授業展開となるように教材作りを工夫し、参加型学習を中心とした活動を取り入れて、生徒たちの気づきを大切にしてきた。中学の3年間を通して、多様な視点で物事を考える思考力を鍛え、継続的な活動をしていくことで、生涯にわたって国際理解をしていくことの意義や国際貢献を自分なりの形で続けていくことを伝えている。

継続した教育をしてきたことで、Free the children の活動に生徒たちが興味を持ち、「書き損じ葉書の回収」によって東アフリカにヤギを送る活動や、モンゴルの図書館に絵本を送る活動を生徒主体で行うことができた。

#### 今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

ESDの発展のためには、「知る→自分が変わる→広げる→つながる→続ける→世界を変える」という流れが大切だと考え、実現には時間がかかることだ。だからこそ、一時的なことだけでなく、長期的な視野をもって指導していくことを重視し、子供たちが生涯にわたって世界と関わっていく教育をしていきたいと思っている。そして、一人で世界を変えることは難しいけれども、間接的でも「自分が世界のためにできること」を意識した生活を送ることで、多様な人々と出会いを生み出し、世界とつながる機会にも巡り合え、人の輪が広がっていく。国際理解をしていく中で多角的な視点が育まれることは、国際貢献に限らず、人としての生き方を考えることにもつながっている。私たちは、多くの人の人生の一部となっている自覚の下、これからの世界を担う子供たちの育成とともに、その子供たちの明るい未来のために今抱えている諸問題を解決していくことに尽力したい。